

新潟県子連だより

No. 114



未来へとつながる子ども会活動へ

新潟県子ども会連絡協議会 会長 須田 貴子

この度の総会におきまして武士俣会長の後を引き継ぎ、会長を仰せつかることになりました須田と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

前任の武士俣会長が十余年に渡り、関東甲信越静フロックの会長や全国子ども会連合会での共済事業等に関して勢力的に活動されていらつしやいましたので、ここまで成長した県子連の後任として、会長職をお引き受けするのは身の引き締まる思いがいたします。この場をお借りして、二年間副会長をさせていただいた経験を振り返り、今後の展望にも触れながら、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、新潟県子ども会連絡協議会が昭和五十一年に発足して三十八年。市町村子ども会への情報の提供や事業支援、指導者育成などの他、今年度、もっとも力を注ごうと考えているシュニアルター養成研修会のあり方やKYT（危険予知トレーニング）研修など、時代とともに子どもたちの健やかな成長を願う役員や育成者の皆様方と、いまある活動を継続しつつ、知恵を出し合いながら、より多くの皆様からご支援いただけるような活動へと展開して参りたいと考えております。

そもそも子ども会とは、意図的に地

域に組織された異年齢集団であり、その活動を通して、子どもの成長と集団の成長を願う社会教育団体であります。縦割りの中で学ぶ集団行動や、地域の中の決まりや遊びを通した仲間づくりなど、小さいうちから自然に社会性を身に付けられる場でもあると考えております。

情報社会と言われる昨今、子どもたちの環境も大きく変わり、次から次に変わる情報機能を併せ持つゲーム機種などへの対応も、大変難しいものになってきております。

また、保護者の価値観の変化に伴い、子育てに関する考え方も大きく変容しており、保護者の多様な環境にも配慮しながら、どうやったら子どもたちの安心安全な地域活動を推進することが出来るのか、単位子ども会をまとめる市町村子ども会の役員の資質を高める研修等も必要になってきております。

保護者自身が多忙であったり、子どもの出生数の減少により、役員の負担が多くなったりと、子ども会全体で事業の簡略化を図り、運営もままならない単位子ども会も増えているとお聞きします。また、都市部だけの問題ではなく、近年の少子化や核家族化等により、子ども会にも未加入の孤立する家

庭も増えております。子育てや家庭教育を地域で支援ということもこれからの地域の子ども会役員の大切な役割として捉え、地域における家庭教育活動も推進していきたい、と考えております。

武士俣前会長が並々ならぬご努力で安全教育を推進していただいたお蔭で新潟県の子どもの安全活動が定着した。今後は、県内の加盟傘下の市町村子連を通して次代を担う子どもたちの心の育成にも積極的に関わり、子ども会個々の育成支援のためにも大きな情報発信地でありたいと思っております。

さらには、地域の育成者と保護者が一体となり、子育てや家庭教育支援に取り組む子ども会として成長していただけるよう、微力ながら精一杯邁進する所存でございます。

会の運営はひとりでは出来ません。多くの皆様から更なるご支援、ご協力を賜り、未来へと繋ぐ子ども会でありたいと思っております。

子どもの一人ひとりが大切にされ、子どもの企画による子ども会活動の推進と、子どもが主人公となるような活動を県全体で推進できますよう、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶と致します。



総会を終えて

妙高市子ども会連絡会 会長 岡田政枝

一 はじめに

五月十八日(日)、平成二十六年第三十九回新潟県子ども会連絡協議会の総会が、妙高市の新井総合コミュニティセンターで開催されました。

御来賓として新潟県教育庁生涯学習課長 坪川充 様、妙高市長 入村明様(代理妙高市教育長 濁川明男様)をはじめとする五名の皆様方の御臨席をいただきました。

二 開会式では

開会式では、武士俣会長から共済制度の説明を上・中・下越地区で実施したこと、全子連が公益社団法人としてスタートしたこと、KYT(危険予知トレーニング)の中級指導者養成講習会を開プロで開催予定であることなどの説明とあいさつがありました。

次に、これまでに功績のあった育成者・指導者、ジュニア・リーダー、子ども会の団体表彰が行われました。全子連表彰を受賞された方々の紹介もありました。

これに対して、表彰者を代表して柏崎市子連の五十嵐孝夫様から力強い謝辞がありました。五十嵐様は子ども会と出会ったきっかけ、これまでの活動や取組について、これからの子ども・保護者・地域の方々と力を合わせて子

ども会の活動を大事にしていきたいと述べられました。受賞されました方々に心からお祝い申し上げます。

祝辞として、県生涯学習課長の坪川充様から少子化と高齢化が一層進展する中で、今後の新潟県の動向や施策について説明されました。また、妙高市教育長の濁川明男様からは、昨今問題となっている携帯電話について、妙高市では原則として義務教育の間は子どもに携帯を持たせないことにしていること等のお話がありました。

連絡として、国立妙高青少年自然の家所長の伊野巨様から、施設のキャッチフレーズ「豊かな体験活動を妙高で!」「体験の風を起そう!」やいろいろな取組・プランを推進しているの子ども会でも利用していただきました。このPRがありました。

三 総会では

総会では、上越市子連の大坪寛様(県子連理事)が議長に選出され、平成二十五年年度の会務・事業報告、決算報告、監査報告に続いて、平成二十六年年度の事業計画案、予算案等の議事について慎重審議がな



され、すべて原案通り承認されました。

四 遊びのひろばでは

第十五回「遊びのひろば」は、隣接されている新井文化ホールで開催されました。役員やジュニア・リーダーの方々が念入りに準備したブースの周りには子どもや保護者の方々が大勢参加していました。ペンシルバルーンで犬などの動物や刀づくり、キラキラしゃぼん玉、プラトンボ、折り紙、ぬり絵、つりぼり、ペーパークラフト、プリンゴランド、プラバン、割りばし鉄砲のまと当て、紙ひこうきなどを嬉しそうに作っている子どもたち、なつかしく思い出しながら同伴している保護者、それぞれ楽しくいろいろなブースを体験していました。それぞれのブースで対応しているジュニア・リーダー、シニア・リーダー、そのサポートとして見守る大人たちの姿が見られました。外の広場ではオリジナルな紙ひこうきを飛ばす子どもたちもいました。また、積み木では、子どもから大人まで楽しんでいました。今回、遊

びのひろばに参加した市区町村は、加茂市・三条市・長岡市・上越市・頸城区・柿崎区・板倉区・妙高市でした。次回第十六回「遊びのひろば」は、九月七日に魚沼市堀之内公民館で開催される予定になっています。

五 最後に

課題となっている会員減の問題、ジュニア・リーダーの養成など今後どう向き合っていくかです。少子化に伴って現代の青少年はとても忙しい、やりたいうこと、やらなければならないこと、人それぞれの優先順位など自分の考えを持って行動することが大切だと思います。子どもに限らず大人もです。

会場については、少しわかりにくいところでしたが、大勢の方々に足を運んでいただきありがとうございました。明るく使いやすい会場で楽しく遊ぶことができたという感想をいただき、妙高市で開催して本当によかったと思います。

平成二十六年年度の県子連並びに単位子ども会の活動の充実・発展を祈念し、報告とさせていただきます。





子ども会活動と地域「コミュニティ

Ⅱ 地域で見守られ、地域で育つ子どもと大人Ⅱ

下越教育事務所 社会教育課 副参事 甲斐浩之

一 はじめに

公園などで子ども同士遊ぶ姿を時折見かけるとほっとします。都会でも農漁村でも放課後や休日に、子どもたちの遊び戯れる姿や、学校帰りの楽しそうな、のんびりとした道草の姿を見かけることが少なくなりました。

このことは、少子化による遊び時間の減少、習い事や学習塾通いによる遊び時間の減少、自由に過ごせる居場所としての遊び場の減少に原因があるとも言われています。

しかしながら、これらのことが多くの課題を地域にもたらしていると思われる。今こそ、「地域の子どもは地域で育てる」という「子ども会」本来のあり方が、とても大切になってきていると思うのです。

二 多くの課題

(一) 子どもの生活技能の低下

「人間は体験を通して成長する」と言われていますが、体験には二つの種類があります。一つは、直接体験ですが、具体的には遊びや仕事、野外活動などを通して体験のことです。もう一つは間接体験で、学校等で行う勉強、読書、テレビ視聴などです。

一九七〇年代から子どもの生活技術に関する調査が続いている目白大学の谷田教授は、「現代の子どもたちを見ると、テレビの視聴時間が長くなり、さらに学習塾やゲームの時間が加わることから、生活の中に直接体験の入る余地がほとんどなくなっている。」「生活の大部分を間接体験が占めるという状況に陥っていて、それが問題だ。」と訴えています。

このことは、国も気がついていて、平成元年の学習指導要領改訂のときに、直接体験を意図して小学校の低学年に生活科を設け、その後、三年生以上に総合的な学習の時間を設けました。生活科で学習することのほとんどは、かつて家庭や地域の生活で体験できたことばかりです。二〇数年も前から危惧されていたことですが、事態はより深刻化しています。

(二) 子育てに不安を持つ親の増加

「地域の子ども会」をはじめ、伝統的な青少年活動を続けてきた団体への加入率が低くなっています。また、町内会・自治会などへの加入率も低下しています。都市部では全世帯の六割程度の加入でその多くが高齢者世帯であり、若い家族ほど加入率は低いよう

です。役員になりたくない世代が多いとも聞いています。「あの子はこの子かな」と地域の大人と子どもが互いに顔なじみになり、連絡を取り合うことも

少なくなり、大人も子どもも地域の中での関わり合いが、希薄化しています。このように、地域で共同体を創っていく機能が弱体化するなど、家庭や子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。子育てについての不安や孤立

を感じつつも相談する相手もなく、社会性や自立心等、子どもの育ちや基本的な生活習慣の確立などに課題を抱える家庭が多くなっています。

三 国・県の動向

昨年六月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を基本的方向性の一つに掲げています。子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みづくり、地域住民の参画による子どもたちの学びの支援、関係部局や関係機関の連携・協働により地域「コミュニティ」の形成につなげていく取組の推進等について示しました。

また、このことを受け、県では今年四月に新潟県教育振興基本計画を策定

し、親の学びの支援や親と子で学ぶ機会の充実、学校を拠点とした活力ある地域コミュニティの形成の促進等を示しました。

これらを具体的に推進していくにあたっては、「連携」と「コーディネート」がキーワードであると思います。

地域の中で異年齢の子どもたちと大人がともに様々な体験や交流の活動を行ってきた「子ども会」は、地域と家庭、学校を結ぶ重要な役割を担ってきました。学校等との連携をより積極的に進めた取組が、今後ますます期待されると思われれます。

四 おわりに

自然と触れ合う・地域と触れ合う・隣人と触れ合う機会を、子どもにも大人にも提供することができるのは「子ども会」です。保護者の不安を取り除き、子育てへの意識をより高められる可能性を持った組織も「子ども会」です。「子ども会を活性化するための取組」は決して子どもたちだけのための手立てではなく、地域の大人に元氣と自信をよみがえらせる取組でもあると思います。

健やかな子どもたちを育む地域の中心的な役割を担う「子ども会」に期待します。子どもと大人の絆、地域のコミュニティの再生に向けて、「子ども会」の活動が一層充実・発展することを祈念しております。

おめでとうございます

平成26年度県子連表彰・平成25年度全子連表彰

(敬称略)

1 育成者・指導者の部 (13人)

No.	市町村	氏名	活動歴	所属子ども会等
1	妙高市	小島利一	12年	白山町第2PTA
2	加茂市	富田雄大	5年	赤谷区青少年保護育成会
3	〃	田下恭子	5年	〃
4	〃	松本典子	5年	〃
5	三条市	川瀬弓子	13年	じょんのび子ども会
6	〃	堀内郁夫	15年	旭地区子ども会
7	〃	佐藤栄作	13年	いぐりわかふじ子ども会
8	〃	滑川江美子	14年	〃
9	〃	西山雄一郎	9年	〃
10	〃	有木伸之	10年	〃
11	新発田市	出村豊	18年	乙次子ども会
12	見附市	小林春男	25年	見附地区青少年育成会
13	柏崎市	五十嵐孝夫	6年	柏崎市子ども会連絡協議会

2 ジュニアリーダーの部 (3人)

No.	市町村	氏名	活動歴	所属子ども会等
1	妙高市	日野稜馬	6年	妙高市子ども会ジュニアリーダークラブ
2	〃	霜鳥佑太	6年	〃
3	上越市	真保風人	7年	上越市大豆子ども会

3 団体の部 子ども会 (10団体)

No.	市町村	団体名	活動歴	代表者氏名
1	新潟市	関屋大川前一区会自治会子ども会	17年	日野浦律子
2	〃	浦山十区子ども会	18年	大澤弥生
3	〃	グリーンタウン新潟弐号館	19年	渡辺直美
4	長岡市	天神子ども会	58年	酒井明美
5	〃	中瀬子ども会	30年	久末弘美
6	十日町市	芋沢子ども会	30年	保坂弥生
7	〃	田沢本村子ども会	30年	村山博子
8	〃	如来寺子ども会	30年	有馬美由紀
9	〃	上山子ども会	30年	上原聡美
10	〃	田中子ども会	30年	丸山剛三

4 全子連表彰 (平成25年度)

(1) 子ども会の部

該当なし

(2) 個人の部 (20年以上継続活動)

第47回全国子ども会育成中央会議・研究大会で表彰

期日 平成26年2月14日(金)

会場 宮城県宮城郡松島町 ホテル松島大観荘

1	柏崎市	関矢優一	表彰状	関矢ちづ子	感謝状
2	新潟市	真保洋子		真保善八	

ますますのご活躍を!!



子の天真爛漫に
触れる心地よさ

県子連表彰を受賞して

柏崎市子ども会連合会

五十嵐孝夫

僭越ではありますが、受賞者を代表して、お礼の言葉を述べさせていただきます。

私が子ども会と関わり始めたのは、町内の祭り行事や夏のラジオ体操の指導からでした。その後、放課後子ども教室、地域の子どもの育成部の立ち上げ、そして、市子連の活動と、現在に至っております。

ここまで継続出来たのは、子どもたちの天真爛漫な姿に触れる心地よさであったと思っております。激しく変化する現代社会は、大人でさえも対応が難しい。子どもたちにはなおさらと思いますが、子どもたちの天真爛漫さは、道徳性を逆に大人たちに訴えてくれます。柔軟な成長力と相まって、子どもたちを信頼して、健やかな成長を願う環境づくりとしての「子ども会活動」は、なお一層、大切な役割を持つようになると思います。

本日の表彰は、私たち受賞者への励みとして、今後も、皆様と共に歩んでいきたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

上越地区

楽しかった
子ども会キャンプ

上越市柿崎区三ツ屋浜子ども会
六年 小関 海央

私は、毎年夏に行われる、三ツ屋浜子ども会のキャンプに参加しました。前日より前から、楽しみに準備をしていました。

当日は公民館に集合し、話を聞いた後、キャンプ場に向けて出発しました。これからキャンプが始まると思うと、とってもワクワクドキドキしてきました。キャンプ場に着くと、重い荷物を運び、そしてテントのメンバーが発表されました。私は仲の良い友達と一緒にだったので、ますますワクワクしてくる中、キャンプが始まりました。

最初はテント立てです。大人の人にも手伝ってもらいながら、友達と協力して、一生けん命組み立て、無事完成しました。そのテントの中で、六年生とも一緒に、トランプやウノをして楽しく遊びました。

その後は、いよいよ夕飯作りです。女子は野菜を切って、カレー作りです。男子はお父さんたちと一緒にうちわで火を調整しながら、ごはんを焼きました。みんな



で話をしながら、楽しく作れました。そして完成。小さい子たちもみんなそろい、全員で食べました。みんなで作って、みんなで食べたカレーは特別においしかったです。

夜おそくまでみんなで盛り上がりしました。

二日目はプールに行きました。前日のつかれなど感じず、友達とうきわを使ってバシャバシャ泳ぎました。

二日間を通し、とても心に残る楽しいキャンプでした。

今年はいよいよ六年生です。今年のキャンプでは同級生と協力してみんなをまとめ、昨年よりももっと楽しく、大成功させたいです。

中越地区

子ども会
スポーツ大会に参加して

柏崎市比角地区子ども育成会
中学一年 大矢 拓海

ぼくが、このスポーツ大会で優勝して嬉しかったことがあります。その嬉しかったこと

とは、勝った時にチームみんなで一緒によろこんだりして、みんなと仲がよくなったことが嬉しかったです。

このスポーツ大会に参加して、あらためてよかったと思います。なぜなら、他のチームの人たちとも、仲良くなれたりしたからです。このように、スポーツでいろいろな人たちと、関わりをもてたので、この大会に参加して良かったと思いました。このような経験をしているから、ぼくはス



ポーツを続けていられるんだと思います。そして、これからも色々なスポーツを体験して、スポーツを続けていき、たくさんの人たちと関係をもてたらいいなあ、と思っています。

下越地区

楽しかった子ども会

阿賀野市駒林下地区子ども会

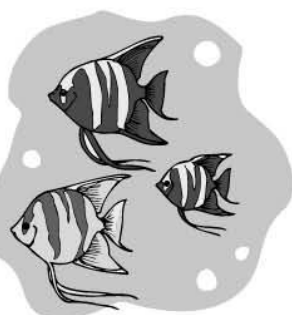
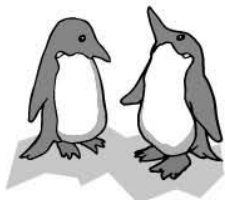
三年 五十嵐恵太

夏の子ども会は、にいがた市にあるマリニピア日本海に行きました。リニューアルしてから行くのは初めてだったので、とても楽しみでした。

ついでに、エントランスに人が大ぜいいたのでびっくりしました。ぼくたちのすんでいる地区の人たちが全員集合してからみんなの中に入りました。

中に入るとキレイな魚、見たこともないような魚をいっぱい見ることができました。どんどんすんで行くマリントンネルにつきました。魚が泳いでいるところを下から見ることができてうれしかったです。

二階に行くとヒトデやイソギンチャクにさわることができるコーナーがありました。前に家族で来たときはさわることができなかったけど、友達といっしょ



だとさわることができてうれしかったです。

それから、みんなでイルカショーを見に行きました。イルカがお姉さんの合図に合わせて、ジャンプをしたり泳いだりするのがすごいなあ、と思いました。

最後に、みんなでお昼ごはんのおべんとうを食べました。たくさん食べたので、おなかがいっぱいになりました。お昼ごはんを食べたあとは、みんなでおしゃべりしたりして、とても楽しかったです。

夏の子ども会は、みんなでバーベキューをしたり、サントピアワールドに行ったり、花火をしたりと、その年によってちがうので毎年楽しみです。これからも、駒林下地区のみんなと、楽しいことをいっしょにしていきたいです。

佐渡地区

クリスマス会

佐渡市畑野二分団子ども会

中学一年 渡部 鈴菜

私の二分団最後の子ども会は、クリスマス会でした。私たち六年生はクリスマス会の司会進行やゲームをしました。

最初のケーキデコでは、カップケーキに生クリームやチョコなどを使って飾りつけをしました。女の子のかわいいケーキや男の子のボリュームたっぷりなケーキなど、個性的なケーキができあがりました。自分で作ったケーキはとてもおいしかったです。

そのあと、新聞相撲をやりました。対戦相手が一年生や二年生の小さな子でも、六年生が負けてしまつこともあって、とても盛り上がりしました。たくさん新聞をやることは、普段はできないのでおもしろかったです。

最後にじゃんけんサントクロースをやりました。六年生がサントクロースになって、下の学年の子たちとじゃんけんをして、負けたらプレゼントを一つあげるゲームです。



私はじ

やんけん

が強いのか、なか

なか負けであげられなくて、

途中から

ずっとグ

ーを出す

ことにし

ました。

それでも気づかない小さな子がいて、心の中で「パーを出せばいいんだよ」と思っていました。

全然勝てなかった子がじゃんけんで勝ってくれた時は、私もその子もうれしくなって、

「やった〜」

とハイタッチをしました。みんなにプレゼントが行き届いてよかったです。

帰る時に、

「六年生のおかげでとっても楽しかったよ。ありがとう。」

と言われてうれしかったです。今度の子ども会もみんなが楽しん

でくれるといいなあと思います。



平成26年度 県子連基本方針・事業

○県子連事業の基本方針

時代の要請に応えた子ども会づくりを目指して、地域社会の力を結集して、子どもが主役のドラマを創ろう。子どもの手による子ども会活動の実現のために、「子ども会の意義や必要性」を社会に認知、評価される活動を積極的に推進していく。

子ども会育成のため、「情報発信基地」としての機能を高める。そして「人材育成、指導者の派遣及び安全指導」等子ども会活動の支援に努める。

財政面においても、行政等の支援に依存しない確固とした「財政基盤の確立」を図っていく。

そこで、常に参加市町村の要請に応えられるよう、次に掲げる項目を重点に活動を展開する。

- ◇ 加盟団体の会員拡大と、子ども会空白地域、未加入市町村の解消を図ろう。
- ◇ ジュニアリーダー・青年指導者を養成しよう。
- ◇ K Y Tを活用して、子どもたちの安全な活動をすすめよう。
- ◇ 単位子ども会の活動の紹介・啓発に努め、魅力ある子ども会活動を推進しよう。

○事業の概要（一般会計部門）

1 第39回総会（妙高大会）・（予算額300,000円）

功労者表彰・事業報告・決算・事業計画・予算等の審議をする。

- (1) 期 日 平成26年5月18日（日）
- (2) 会 場 妙高市新井総合コミュニティセンター
- (3) 内 容 表彰式・議事・全子連表彰者（団体）の紹介・子どもの遊びのひろば

2 功労者・優良団体等の表彰（予算額80,000円）

活発で優秀な活動をしている個人及び団体を表彰し、県内の子ども会活動の振興に資する。

- (1) 期 日 平成25年5月18日（日）
- (2) 会 場 妙高市新井総合コミュニティセンター
- (3) 対象者 育成者・指導者13人 ジュニアリーダー3人 団体10

3 県子ども会K Y T指導者養成講習会（初級コース）

- (1) 期 日 平成26年7月13日（日）
- (2) 時 間 午前9時30分～午後4時30分
- (3) 会 場 新潟市巻地区公民館
- (4) 内 容 ア 子どもの安全教育と子ども会K Y T イ 子ども会K Y Tのすすめ方
ウ 子ども会K Y T指導の仕方

4 各地区主催事業

- (1) 地区別子ども会連絡協議会総会 (2) 地区別子ども会交歓大会
- (3) 加入促進事業・地域活動推進事業 (4) 安全教育

5 派遣事業

(1) 第42回関東甲信越静地区子ども会ジュニア・リーダー神奈川大会（予約額200,000円）

- ア 期 日 平成26年8月15日（金）～17日（日）
- イ 会 場 神奈川県厚木市七沢自然ふれあいセンター
- ウ 参加者 中・高校生9人 引率1人の予定
- エ 関プロ子ども会に参加したことのない中・高校生

(2) 第47回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会（予算額250,000円）

- ア 期 日 平成26年10月18日（土）～19日（日）
- イ 会 場 千葉県成田市 マロウド・インターナショナルホテル成田
- ウ 30人（宿泊費15,000円（個人負担）貸切バス（県子連一部負担）

(3) 第45回全国子ども会育成中央会議・研究大会（予算額200,000円）

ア 期 日 平成27年2月20日（金）～22日（日）

イ 会 場 愛知県名古屋市

ウ 内 容 開会式、表彰式、記念式典、子ども会運動方針、シンポジウム、地域イベント、ワークショップ、研究発表、研究協議、情報交換、子ども会育成フォーラム 閉会式（予定）

エ 参加者 10人（参加者人数により県子連負担の変動あり、宿泊費以外の旅費等は個人負担）

オ 参加費 （未定）円 個人負担・弁当代、旅費個人負担

6 県子連だより「ニイガタ子ども会」の発行（予算額500,000円）

子ども会活動の情報を収集し、市町村教委や小・中学校及び関係団体等に提供することにより互いの交流を深め、子ども会の推進に努める。小・中学生の子ども会活動についての感想・意見・希望等を掲載し広報紙面の充実を図る。子ども会活動における安全指導を推進するために事例等を紹介する。

(1) 発 行 平成26年6月13日（第114号） 平成26年11月14日（第115号）

平成27年3月13日（第116号）

(2) 発行数 5,000部

7 そ の 他

(1) 創立40周年記念事業準備積立金 (2) 第51回関東甲信越静地区子ども会JL大会準備積立金

(3) 地区活動推進事業

(4) 子ども会加入促進事業

(5) 各種会議

ア 三 役 会 年3回 イ 理 事 会 年3回 ウ 専門委員会 年3回

エ 広報委員会 年6回 オ 指導研修部会 年6回 カ 編集委員会 年6回

キ 安全部会 年4回

○事業の概要（安全共済会会計部門）

1 子ども会KYT実践普及活動（市町村KYT活動：予算額700,000円）

市区町村で実施する安全教育事業に助成を行う。

2 指導者育成研修会（予算額：110,000円）

市区町村で開催する事業に補助を行う。

3 安全部会（安全委員会）の開催（予算額：120,000円）

平成二十六年・二十七年 度県子連役員																																	
事務局員	事務局員	編集委員	専門委員	監査	理事	理事	理事	副会長	顧問																								
平原	板垣	伊藤	五十嵐	松本	小高	石黒	岩崎	林	加藤	関	滝澤	反町	石塚	近藤	桐生	真保	風間	真保	佐藤	長橋	高橋	小川	大坪	福崎	藤田	小瀧	瀧本	近藤	柊澤	岡田	須田	武士	
しのぶ	徳衛	孝博	義博	志穂			るみ	清夫	優一	麻樹	幸男		猛利	正栄	正洋	浩一	栄作	悦雄	栄作	悦雄	敏昭	真美子	寛一	幸夫	健幸	茂幸	晴夫	義衛	政晴	政枝	貴子	昭司	
新潟市	新潟市	佐渡市	柏崎市	上越市	上越市	柏崎市	三条市	妙高市	新発田市	柏崎市	上越市	新潟市	佐渡市	阿賀野市	新発田市	新潟市	南魚沼市	加茂市	三条市	見附市	十日町市	長岡市	上越市	上越市	上越市	上越市	上越市	上越市	新潟市	長岡市	妙高市	柏崎市	三条市
		(大潟 頸城)																															

平成二十六年・二十七年県子連役員

平成25年度 通常会計収支決算書

1. 収入の部

(単位:円)

科 目	25年度予算額	25年度決算額	比 較 増 減	備 考
1 会 費	7,000,000	7,023,000	23,000	一律@100円×70,230人 (子ども 45,149人 おとな 25,081人)
2 県 費 補 助 金	192,000	192,000	0	
3 受 託 事 業 助 成 金	0	0	0	
4 雑 収 入	173	596	423	預金利息 (4月280円、10月316円)
5 繰 越 金	989,827	989,827	0	
合 計	8,182,000	8,205,423	23,423	

2. 支出の部

科 目	25年度予算額	25年度決算額	比 較 増 減	備 考
1 事 業 費	1,760,000	1,393,488	△ 366,512	
① 表 彰 費	80,000	33,577	△ 46,423	個人、団体
② 広 報 費	500,000	400,506	△ 99,494	県子連だよりの発行 第111号～113号
③ 指 導 者 研 修 会	200,000	50,350	△ 149,650	KYT講習会等 (ユートピアくびき館 7月21日)
④ J L 中 級 研 修 会	200,000	129,055	△ 70,945	要項印刷 大畑少年センター
⑤ 地 区 別 子 ども 会 交 歓 大 会	400,000	400,000	0	4地区 (上・中・下・佐渡)
⑥ 地 区 活 動 推 進 費	120,000	120,000	0	4地区 (上・中・下・佐渡)
⑦ 加 入 促 進 費	260,000	260,000	0	4地区 (上・中・下・佐渡)
2 大 会 参 加 費 等	850,000	512,397	△ 337,603	
① 関プロ地区子ども会育成研究協議会	300,000	187,880	△ 112,120	第46回山梨県 参加者25人
② 関プロ地区子ども会JL大会	250,000	107,677	△ 142,323	第41回長野県 参加者7人
③ 全国子ども会JL研究集会	100,000	11,300	△ 88,700	静岡:国立中央青年の家 参加者1人
④ 全国子ども会育成中央会議	200,000	205,540	5,540	第47回 参加者6人 会場:宮城県松島
3 積 立 金	500,000	900,000	400,000	
① 第54回関プロ育成研積立金	200,000	300,000	100,000	平成33年大会 新潟県
② 第51回関プロJL大会積立金	50,000	150,000	100,000	平成35年大会 新潟県
③ 創立40周年記念積立金	200,000	400,000	200,000	平成28年度 記念式典
④ 退 職 引 当 金	50,000	50,000	0	
4 会 議 費	1,110,000	924,000	△ 186,000	
① 総 会 費	300,000	228,900	△ 71,100	第38回 新潟市 (参加旅費一部補助)
② 会 長 会 議	300,000	270,130	△ 29,870	東京3回 周年記念 関プロ会長会議
③ 総 務 部	150,000	108,200	△ 41,800	年4回
④ 専 門 委 員 会	80,000	45,180	△ 34,820	年3回
⑤ 広 報 部 (編 集 委 員 会)	180,000	161,560	△ 18,440	年8回 (子ども会だよりの編集会議)
⑥ 指 導 研 修 部	100,000	110,030	10,030	年5回 JL中級研修会の会議
5 事 務 局 費	1,840,000	1,544,022	△ 295,978	
① 旅 費	190,000	180,380	△ 9,620	監査委員 事務担当者 (4月・12月)
② 通 信 運 搬 費	300,000	281,359	△ 18,641	市町村への郵送 電話 HP 等
③ 印 刷 費	200,000	169,328	△ 30,672	封筒 加入促進パンフレット
④ 消 耗 品 費	260,000	190,514	△ 69,486	事務用品 等
⑤ 備 品 費	100,000	26,605	△ 73,395	デジカメラ PDFソフト
⑥ 事 務 所 賃 借 料	550,000	540,000	△ 10,000	事務所家賃
⑦ 光 熱 水 費	80,000	37,586	△ 42,414	〃 光熱水費
⑧ 借 損 費	110,000	108,000	△ 2,000	印刷機・コピー機・パソコン等リース代
⑨ 渉 外 費	50,000	10,250	△ 39,750	下部団体祝い金 慶弔金 等
6 人 件 費	1,870,000	1,795,955	△ 74,045	
① 賃 金	1,740,000	1,712,775	△ 27,225	事務局員2人
② 通 勤 費	130,000	83,180	△ 46,820	〃
7 分 担 費	174,000	173,000	△ 1,000	
① 全 国 子 ども 会 連 合 会	100,000	100,000	0	
② 第46回関プロ育成研	30,000	30,000	0	山梨県 甲府富士屋ホテル
③ 第41回関プロ子ども会JL大会	20,000	20,000	0	長野県 国立信州高遠少年自然の家
④ 青 少 年 育 成 県 民 会 議	3,000	3,000	0	新潟県
⑤ 社 会 教 育 団 体 懇 談 会	5,000	4,000	△ 1,000	
⑥ 関プロ地区子ども会育成連絡協議会	10,000	10,000	0	事務局 新潟県
⑦ 白 山 浦 1 丁 目 自 治 会 費	6,000	6,000	0	@500円×12ヶ月
⑧ 財 団 法 人 オ イ ス カ	0	0	0	
8 予 備 費	78,000	26,678	△ 51,322	
合 計	8,182,000	7,269,540	△ 912,460	

3. 残高の部

収入総額 8,205,423 - 支出総額 7,269,540 = 残 高 935,883 (次年度へ繰越し)

平成26年度 通常会計収支予算書

1. 収入の部

(単位:円)

科	目	25年度予算額	26年度予算額	比較増減	備 考
1	会 費	7,000,000	6,900,000	△ 100,000	一律@100円×69,000人 (子ども 45,000人 おとな 24,000人)
2	県 費 補 助 金	192,000	192,000	0	
3	受 託 事 業 助 成 金	0	0	0	
4	雑 収 入	173	117	△ 56	預金利息
5	繰 越 金	989,827	935,883	△ 53,944	
	合 計	8,182,000	8,028,000	△ 154,000	

2. 支出の部

科	目	25年度予算額	26年度予算額	比較増減	備 考
1	事 業 費	1,760,000	1,760,000	0	
	① 表 彰 費	80,000	80,000	0	個人・団体、ガラス楯、額
	② 広 報 費	500,000	500,000	0	県子連だよりの発行 第114号～116号
	③ 指 導 者 研 修 会	200,000	200,000	0	KYT講習会等(新潟市 7月13日)
	④ J L 中 級 研 修 会	200,000	200,000	0	①妙高自然の家②研修センター③大畑センター
	⑤ 地区別子ども会交歓大会	400,000	400,000	0	4地区(上・中・下・佐渡)
	⑥ 地区活動推進費	120,000	120,000	0	4地区(上・中・下・佐渡)
	⑦ 加 入 促 進 費	260,000	260,000	0	4地区(上・中・下・佐渡)
2	大会参加費等	850,000	750,000	△ 100,000	
	① 関プロ地区子ども会育成研究協議会	300,000	250,000	△ 50,000	第47回千葉県 参加者30人
	② 関プロ地区子ども会JL大会	250,000	200,000	△ 50,000	第42回神奈川県 参加者10人
	③ 全国子ども会JL研究集会	100,000	100,000	0	各ブロック単位で実施の場合あり
	④ 全国子ども会育成中央会議	200,000	200,000	0	第48回中央会議 会場:愛知県名古屋市
3	積 立 金	500,000	450,000	△ 50,000	
	① 第54回関プロ育成研積立金	200,000	200,000	0	平成33年第54回大会 新潟県
	② 第51回関プロJL大会積立金	50,000	50,000	0	平成35年第51回大会 新潟県
	③ 創立40周年記念積立金	200,000	150,000	△ 50,000	平成28年度 記念式典
	④ 退 職 引 当 金	50,000	50,000	0	
4	会 議 費	1,110,000	1,110,000	0	
	① 総 会 費	300,000	300,000	0	第39回 妙高市(参加旅費一部補助)
	② 会 長 会 議	300,000	300,000	0	東京3回 周年記念 関プロ会長会議
	③ 総 務 部	150,000	130,000	△ 20,000	年3回
	④ 専 門 委 員 会	80,000	80,000	0	年3回
	⑤ 広報部(編集委員会)	180,000	180,000	0	年6回(子ども会だよりの編集会議)
	⑥ 指 導 研 修 部	100,000	120,000	20,000	年6回(JL中級研修会の会議)
5	事 務 局 費	1,840,000	1,870,000	30,000	
	① 旅 費	190,000	210,000	20,000	監査委員 事務担当者会議(4月・12月)
	② 通 信 運 搬 費	300,000	300,000	0	市町村への郵送 電話 インターネット 等
	③ 印 刷 費	200,000	200,000	0	封筒・ハガキ印刷 加入促進パンフレット
	④ 消 耗 品 費	260,000	240,000	△ 20,000	事務用品 等
	⑤ 備 品 費	100,000	100,000	0	事務用机・イス 金庫
	⑥ 事 務 所 賃 借 料	550,000	550,000	0	事務所家賃
	⑦ 光 熱 水 費	80,000	80,000	0	電気、ガス、水道
	⑧ 借 損 費	110,000	160,000	50,000	印刷機・コピー機・パソコン・プリンタ等リース代
	⑨ 渉 外 費	50,000	30,000	△ 20,000	下部団体祝い金 慶弔金 等
6	人 件 費	1,870,000	1,870,000	0	
	① 賃 金	1,740,000	1,740,000	0	事務局員2人
	② 通 勤 費	130,000	130,000	0	〃
7	分 担 費	174,000	168,000	△ 6,000	
	① 全国子ども会連合会	100,000	100,000	0	
	② 第46回関プロ育成研	30,000	30,000	0	千葉県
	③ 第41回関プロ子ども会JL大会	20,000	20,000	0	神奈川県
	④ 青少年育成県民会議	3,000	3,000	0	新潟県
	⑤ 社会教育団体懇談会	5,000	4,000	△ 1,000	
	⑥ 関プロ地区子ども会育成連絡協議会	10,000	5,000	△ 5,000	事務局 千葉県
	⑦ 白山浦1丁目自治会費	6,000	6,000	0	@500円×12ヶ月
	⑧ 財団法人オイスカ	0	0	0	
8	予 備 費	78,000	50,000	△ 28,000	
	合 計	8,182,000	8,028,000	△ 154,000	

創作活動 作って遊ぼう その18

飛ぶ形に紙をおって、紙飛行機をつくろう。
どんな形がよく飛ぶかな？

1 おり紙飛行機をつくる

おり紙をおっただけで、いろいろな形の飛行機が作れるよ。

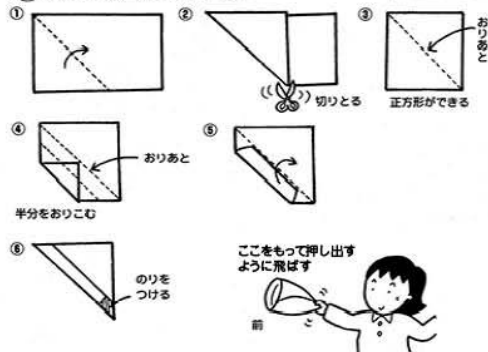
「長く飛んでいるものが勝ち」「遠くまで飛んだものが勝ち」「頭の上から落としても飛びたって遠くまでいったのが勝ち」などルールを決めて遊ぶのも楽しいよ。



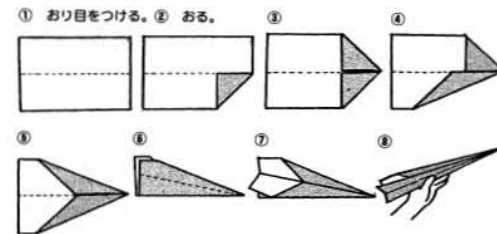
【用意するもの】

おり紙
のり ハサミ

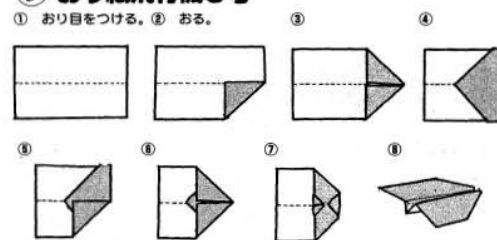
① おり紙飛行機 1号



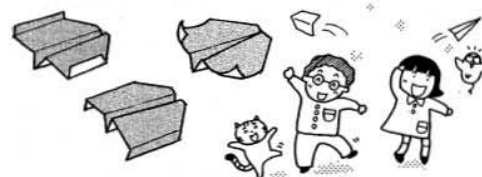
② おり紙飛行機 2号



③ おり紙飛行機 3号



はねをおり曲げてみよう



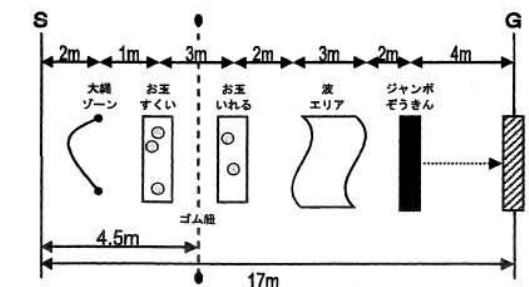
楽しいゲームでもっと仲良し その14

★ ジングルアドベンチャー

○用具／ロングロープ(5)、ゴムヒモ、ボール、ストップウォッチ(5)、ホイッスル(1)、おたま(25)、ボール(25)、カゴ(10)、布(2)、ジャンボぞうきん(5)

○係／スタート係(1)、審判・記録係(5)、用具係、誘導係

●ゲーム時間／5チーム／1セット×20回
全体20分



(11:00~11:20) ◎担当チーム／A・B・C・D

- ① 5人1組。
- ② スタートの合図で大縄ゾーンに向かい、5人で大縄跳びを一回転飛ぶ。
- ③ 飛んだ先にある箱の中から、おたまでボールを一つすくう。
- ④ おたまの上のボールを落とさないようにゴム紐をくぐり、先にある箱の中におたまごとボールを入れる。
- ⑤ 布でできた波エリアの中を潜り抜ける。
- ⑥ ジャンボぞうきんに全員到着したら、5人で雑巾がけの要領で前に進みゴール。

* スタッフは波エリアで布の四隅を持ち、波を表現するように上下に揺らす。

* ジャンボぞうきんが全てゴールラインを越えたらゴール。

平成25年度 安全共済金給付状況

26.3.31現在

No	市町村	性別	学年	行 事 名	事 故 概 要	傷 病 名	部位	通院	入院
1	新発田市	女	2	クリーン作戦	自転車で集合場所へ向かう途中で転倒した	骨折(左手親指)	手	6	
2	見 附 市	女	6	球技大会	ソフトボール試合中、相手の打ったボールが左肘を直撃	打撲(左肘)	肘	1	
3	長 岡 市	女	4	インディアカ練習	休憩中、友人とぶつかり壁に右手を強打	骨折(右手中指)	手	3	
4	妙 高 市	女		新井中央小学校グラウンド	キャッチボール中、反れたボールを取ろうとジャンプ。着地時、足をひねる	捻挫(右足首)	足	3	
5	新 潟 市	男	1	ラジオ体操	帰宅途中、公園の側溝のフタの隙間に足が落ちた	擦過傷(左足)	足	6	
6	柏 崎	男	5	クリーンデー	行事中に側溝を飛び越えようとジャンプし、着地時すべって転倒	骨折(左第3.4中足)	足	5	
7	上 越 市	男	2	直江八幡春まつり(子どもみこし)	休憩中、止めてあった大人用自転車に乗っていた。他の児童がそのタイヤを動かしたため転倒	骨折(左肘)	肘	5	
8	燕市吉田	女	1	吉田まつり	台車の上に被害者が、腕を入れていることに誰も気付かず神輿を置いたため腕が挟まった	骨折(右前腕)	腕	11	
9	見 附 市	男	4	親子野球大会	ボールをキャッチしようとしたら、バランスを崩し転倒	筋挫傷	肘	4	
10	三 条 市	女	4	夏休み子どもサマーキャンプ	かっつけこの最中、後ろから来た子が踏き、被害者にぶつかり転倒	骨折(左手)	手	5	
11	長 岡 市	男	3	廃品回収	荷物を積み込み、振り返った拍子に他の子と頭をぶつけ、転倒した	打撲(左肘)	肘・頭	1	
12	長 岡 市	男		深沢神社 秋季大祭	山車に付いている提灯の取付不具合を直そうとしたら、足を滑らせ転倒	打撲(右下腿部)	足	4	
13	妙 高 市	男	高1	子ども交流会	野外活動中、なたで薪を割っていたら、誤って左手人差し指を切った	切創	手	3	
14	新 潟 市	男	5	北っ子ベースボールリーグ	試合中にスライディングした時、地面に強く手を突いた	骨折(右手)	手	6	
15	柏 崎	男	4	バスケットボール練習	練習中に他の児童と接触し転倒	脱臼	肘	6	

平成24年度 安全共済金給付状況(平成25年度継続治療分)

No	市町村	性別	学年	行 事 名	事 故 概 要	傷 病 名	部位	通院	入院
1	佐 渡 市	女		親子お楽しみ会	キッズコーナーの遊具で遊んでいて転倒し骨折	右上腕骨顆骨折	腕	22	4
2	三 条 市	女	5	子ども神輿	会場内で走っていた男児と衝突し大腿部を床に強打した	ペルテス病	足	4	40
3	上 越 市	男	5	祇園祭り	観覧車に乗っていた子ども達が観覧車の木をぶつかり転倒した。至くには観覧車の横から落ちて転倒	切創	頭	2	
4	長 岡 市	男	4	歓送迎会	畳の上で遊んでいたら、少し高低差のある所から落下	左肘頭骨折	肘	6	

県子連発足以来の傷病見舞金支出状況

昭和51年度	222,800円	昭和61年度	1,355,720円	平成8年度	1,002,970円	平成18年度	848,800円
昭和52年度	538,950円	昭和62年度	1,745,170円	平成9年度	967,470円	平成19年度	963,875円
昭和53年度	632,300円	昭和63年度	1,159,410円	平成10年度	966,500円	平成20年度	371,947円
昭和54年度	842,930円	平成元年度	1,036,070円	平成11年度	828,000円	平成21年度	948,740円
昭和55年度	1,042,590円	平成2年度	1,404,596円	平成12年度	788,000円	平成22年度	1,530,590円
昭和56年度	1,314,510円	平成3年度	1,420,587円	平成13年度	1,403,200円	平成23年度	598,310円
昭和57年度	1,105,680円	平成4年度	1,126,524円	平成14年度	966,800円	平成24年度	476,819円
昭和58年度	1,554,420円	平成5年度	1,028,215円	平成15年度	469,200円	平成25年度	854,766円
昭和59年度	1,484,940円	平成6年度	1,118,800円	平成16年度	774,500円		
昭和60年度	1,203,470円	平成7年度	1,124,310円	平成17年度	574,200円		

総 計 37,796,679円

全子連から	昭和51年度	700,000円(死亡)	平成6年度	70,000円(後遺障害)	平成16年度	70,000円(後遺障害)1件
	昭和59年度	3,000,000円(死亡)	平成8年度	315,638円(賠償責任)2件	平成18年度	210,000円(後遺障害)2件
	平成元年度	70,000円(後遺障害)	平成10年度	58,800円(賠償責任)	平成19年度	6,000,000円(死亡)1件
	平成2年度	705,000円(後遺障害)	平成11年度	43,300円(賠償責任)2件	平成20年度	163,135円(後遺1、賠償2)
	平成3年度	140,000円(後遺障害)2件	平成12年度	140,000円(後遺障害)2件	平成21年度	70,000円(後遺障害)2件
	平成4年度	70,000円(後遺障害)	平成13年度	210,000円(後遺障害)2件	平成22年度	108,305円(後遺1、賠償2)
	平成5年度	70,000円(後遺障害)				

県子ども会連絡協議会 E-Mail n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

編集発行 新潟県子ども会連絡協議会
 〒九五一一八三三
 新潟市中央区白山浦一三〇〇
 電話 〇二五一一三〇一五九八
 FAX 〇二五一一三〇一五九二

○今年度も年三回の県子連だよりを発行いたします。広報・編集委員の皆さんも張り切っております。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。(文責:板垣)

○今年の四月から消費税が八%にアップしました。ちょっとした買い物でも値上がりを感じております。節約・

○新会長の下、平成二十六年年度の県子連活動が力強く動き始めました。各地区・市区町村・単位子ども会の活動が安心・安全で充実したものと期待しております。

○先日は快晴の下、緑豊かな妙高の地で平成二十六年年度県子連総会が開催されました。妙高市教育委員会・妙高市子連・上越地区子連の皆様には多大なるご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

あ
と
が
き